

十二時二十分

遊戯室

男児五名がめいめいカラーフープや竹の輪を持って、お互いに投げ合ったり、胴にかけて引き合ったり、走りまわったりしている。

保育室

先生は子どもの机に向かっておめんをつくっている。

実習生のまわりで女児五名が誕生会のかごをつくっている。

男児一名、女児五名が保育ブロックで遊んでいる。

男児二名がボーリングをしている。



二学期

機部景子

ボーリング

TとAが箱積木でレーンをつくって、ボーリングをしている。

T「ねえ、てんすうかいておくことにしない？」

A「そうしよう」

T「せんせい、てんすうかくから、かみちょうだい」

A「おい、えんぴつがいるぜ」とTによびかける。

T「えんぴつ、えんぴつ」といいながら、紙と鉛筆を持ってくる。

Aがねらいをさだめて、ボールをころがす。びんが何本かたおれる。

Tはたおれたびんを見て、「260てん」という。

今度は交替してTがボールをころがす。

びんが三本たおれる。

九月二十四日 木曜日 雨

実習日

誕生会のかごをつくる
昼食後のあそび

運動会の練習

A 「140てん」といって、たおれたびんをみて、おもいついた数字をいう。

T は次のゲームをしないうちに点数をかきこむ。

T 「せんせい、ぼくいつのまにか40点になった」という。

H とE がボーリングのところにくる。

H 「なにしてんの？ いれて」

T 「いいよ」

E 「いれて」

T 「いいよ」

みんなで四人になる。

A がびんをめがけてボールをころがす。びんが全部たおれる。

みんなが歓声をあげる。

十二時三十分

幼稚園全体で運動会の練習

レコードがなる。幼稚園全体で運動会の練習がはじまる。

・行進

・動物の行進

・きゅうぴいさんの歌、二回

・自動車運転

・ラジオ体操第二

先生は遊戯の動作について、次のような注意をする。

きゅうぴいさんの歌の時、

「きゅうぴいさんの手はよくひろげてね」とか「足をぴんと

して、さがるとお人形さんみたいでしよう？」など。

自動車運転の時、

レコードに合わせないで無茶苦茶に走る子どもに、「無茶苦茶に走らないで、ちゃんと自動車に乗つていらっしゃいよ」など。

九月二十五日 金曜日 台風

台風で風がだんだん強くなる。

子どもたちが登園しはじめてから臨時休園になることに決まり、登園した子どもから帰園することになる。臨時休園になつたことを知らないで、帰宅した父兄の子どもが、すでに四、五名保育室で遊んでいる。

先生は保育室にいる子どもたちのために、明日の誕生会のおかしを入れるかごをつくれるように材料を机の上に準備しながら、先生が保育室をはなれることを子どもたちに話す。

先生は臨時休園になつたことを家庭に知らせたり、登園してくる人に玄関で知らせて、帰宅させるのに忙しい。

保育室には、すでに登園した子どもが四、五名いる。

保育ブロックで遊んだり、誕生会のかごをつくつたりしている。

先生がちょっと保育室にかえつてくる。

(Y) が母親といつしょに保育室までくる。

(Y) の母 「今日は風がつよいので、おやすみにしましようといいき

かせたのですが、どうしても幼稚園にいくといつて来たのです

よ。玄関まできて、おやすみだということがわかったのですが、やっぱりお部屋までいってくるといって、きかないんです

よ」と先生に話す。

先生が台風のために幼稚園がやすみになったことを(や)に話すと、
④はようやく納得したようすで母親といっしょに帰る。

先生はまた保育室を出て、職員室にいく。

Tたちは誕生会のかごをつくりながら、台風の話をしている。

T「いま、すごい風がふいてるぜ」

H「ぼくだって」

M「どんなの、つくろうかな」

①「台風がどんなになつていてるか、見てこよう」といつて①はい

すを窓ぎわに持つていて、いすの上に立ち上がり、高窓から空を
みあげる。

T「東京をとおるんだよ」

H「とおらないかもしないんだよ」

T「台風の目って、みたことある?」

H「レーダーみたいなんだよ。地球の中みたいで」

T「雨と雨がぶつかると台風になるんだよ」

E「いつ、お誕生会なの?」

Tはかごの四つの側面をそれぞれ、自動車、ポスト、家、時計に

する。

Mはかごの取っ手にたくさんのが
国旗をかいている。

先生が保育室にちょっとかえつ
てくる。

先生はMのかごをみて、

「あら、オリンピックみたい

てあげられなかつたけれど、とってもきれいね」という。

先生はまた保育室をはなれる。

子どもたちはだんだん退屈してくる。

Tはかごをかきおわり、はさみできりぬきはじめる。きりぬきな

がら、

T「おべんとうをたべちゃおうね」と他の子どもにいう。

◎「えへん」

T「せんせいにきいて、いいていつたら、たべちゃおうね」

Tはかごを切りおわって、クレヨンをころころとまわしはじめる。

Tは桃色のクレヨンをとり出して、

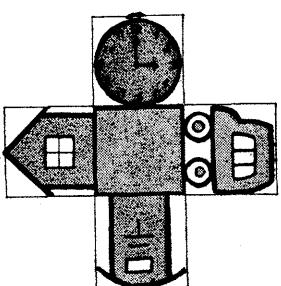
T「ももだよ」とクレヨンを食べるまねをする。

T「きいろはバナナ。おいしい味がするぜ。おいしいね」と今度
は黄色のクレヨンをとり出して食べるまねをする。

他の子どもたちは、かごをつくりつづけている。

T「えを描こう」といつて立ち上がる。

E「何かひとつ、わすれているね」



M 「あれ、わすれたら、だめなんだよね」

T 「おしえて、なあに」

E 「紙くずを片づけなくちゃ」

T は笑って、きりぬいたのこりの紙くずを片づける。

⑤ 「もうひとつ忘れものね。てつだつてあげようかな。のりの手

になるからやめちゃおう」

「かごをきりぬいただけで、まだはり合わせていないこと」

E 「ああん。つまんなくなっちゃった」

子どもたちはみんな退屈してくる。

⑤の母親がむかえに来る。

⑤は母親といっしょに帰宅する。

他の子どもたちも保育室の出口まで行き、玄関の方をみている。

九月二十六日 土曜日 晴

誕生会

運動会の練習

九時二十五分まで

誕生会のお菓子を入れるかごをつくっている子どもが多い。

遊戯室で幼稚園全体で九月生まれの人の誕生会。

誕生会のお菓子を入れるかごをつくっている子どもが多い。

九時三十分～十時十五分

八時四十五分

先生が保育室に入ってくる。

母親と先生が話している。

次々に子どもたちが登園する。

誕生会のお菓子入れをまだつくっていない子どもが、先生のところに

十時十五分～十一時三十分

幼稚園全体で運動会の練習

小学校の運動場に行って練習

音楽行進

遊戯

音楽行進

十一時五十分

帰園

年齢別に分かれて五歳児はリレー、四歳児、三歳児はかけっこ

八時三十分

誕生会のかごをつくる。

先生が登園して保育室に顔を出す。

すでに男児三名、女児一名がきている。

先生は職員室に行く。

子どもたちは職員室に行って、庭に出でいいか、先生に聞きに行く。先生の承諾を得てから庭に出る。ぶらんこ、つり輪のところに行く。

ろに画用紙をとりに来て、自發的にお菓子入れをつくりはじめる。

F 「せんせい、旗の本、ちょうどいい」

先生「あ、旗の本ね、はい」

F 「ね、ぼく、旗のかご(旗の模様をかいたお菓子入れ)をつくる」

先生「まあ、旗のかごなの? すごいわねえ」

◎「Fちゃん、わたしのまねをしたんでしよう?」

先生は◎のいっていのを聞いてわらう。

◎「せんせい、画用紙ちょうどいい」

先生「はい、画用紙ね。まあ、◎ちゃん、口のところになにか、で

きちゃったのね」といい、◎の顔をみながら画用紙をわたす。

先生はひきつづき、母親と話をしながら子どもたちの要求に応じ

ている。

十名の子どもたちがかごをつくっている。

旗の本をみながら、

「これ、ギリシャだね」と話し合っている子どもたちもいる。

◎「せんせい、のりに敷く紙」

先生「ああ、のりに敷く紙ね」といって、先生はいつものりをつけ

る場所にする机の上に包装紙をひろげて、のりをつける場所を用意

する。

先生はまた母親と話しつづける。

A 「せんせい、ぼく、ぬぐ」

先生は母親と話しながら、Aのエプロンをとり、セーテーをぬが

せる。

九時十三分

先生は母親との話をわらる。

I がかごをつくりはじめる。

先生「Iちゃん、きのう、台風でおやすみだったから、そのかご、

間に合わなかつたらいいわよ。まだつくつていなの方もいっぱ

いいるから大丈夫よ」

◎「せんせい、これ、どうやって持つところつけたらしい」

先生は◎のかごをうけとつて、よくみる。

先生「ああ、◎ちゃんの、これ、きれいね。ようく、見ると、全体

が花の形になつていてるのね。じゃあ、このあたりにのりをつけ

て、こうやって、ここにもつところつけたら、どうかしら?」

二、三名の子どもが、できたかごをみせにきたり、相談にきたり

する。

先生はひとりずつていねいに応ずる。

Y 「せんせい、てをつけるの。紙がほしいの」

先生「ああ、Yちゃんのね。じゃ、Yちゃん、あそこで◎ちゃんが

もつところをつくつていてるから、その残つた紙をもらうといい

わ。きっと、ちょうどいいくらいだから」

M がかごをつくろうと思って、画用紙をとりにくる。

先生はMに画用紙をわたしながら、

先生「Mちゃんも、もし間に合わなかつたら、いいわよ。きのう、

台風でおやすみだつたからね」

先生は子どもたちに応じながら、そのあいまに、新しく入った本にクラス名をかいたり、出席簿をつけたりする。

先生は、おそらく誕生会のかごをつくりはじめた子どもたちが、誕生会がはじまるまでに、かごをつくりおえないかもしれないことを予想する。

先生は子どもたちに、今日中につくりおえなくてもいいということを話す。

先生は子どもたちが安心してかごをつくれるように、また、間に合わせに安易につくることのないように配慮する。

九時二十五分

⑩が庭から走って保育室に入ってきて、また庭に出ようとする。

先生「あ、⑩ちゃんね」といつて先生は⑩をよびとめる。

⑩「あたし、もう、つくっちゃったもん、かご」

先生「ええ、そうじゃなくて、お誕生会がはじまるから、外にいる方をよんできちょうだい。お誕生会のしたくをしましよう。今日はいつもよりはやくはじまるから」と、⑩に話す。

先生はまだかごをつくっている子どもたちに、

「あのね。お仕事をしている方ね。今日はもう、ちょっと、間に

に合わないからそれでいいわ。途中でも、かごのできあがつてない方は、今日でなくとも、まだできるから、だいじに自分の引き出しに、しまっておきなさいね」

かごをつくっている子どもたちは、クレヨンやはさみや、つくりかけのかごをめいめいの引き出しにしまう。

庭から子どもたちが入ってくる。

子どもたちはおてあらいに行って、保育室の廊下側の入口に背の

順に並ぶ。

四列になつたり、一列になる練習をする。

子どもたちが並びおわったところ、誕生会がはじまるまでに少し時間ががあるので、四列になつたり一列になる練習をする。

先生「さあ、じゃ、ちよつと時間があるようだから、それじゃ、四列になつたり、一列になつたりしましょう。ごちやごちやしてむずかしいから。四列つてわかる？」四人で並ぶことよ。あのね、四列になつたり一列になつたりする時は、前にならんでいる人がちゃんととなってから、自分がならびかえるようにお約束しましようね。さあ、それじゃ、四人で並んでちよつだい」

子どもたちは先生のいっていることが理解できなくて、動かないで立っている。

先生「ああ、まずふたりずつ、ちゃんとしなきゃね。ふたりずつ、ちゃんと手をつないでみてちよつだい」

子どもたちはふたりずつ手をつないで並ぶ。

先生「そう。できたわね。じゃ、今度は四人になりましょう。こうやって、あなたはここにまつていて、このうしろの方がおどなりにいって」といいながら、先生は一組ずつ手をとつて、指導する。

先生「できた？」四人ちゃんと手をつなげましたか？ そうね。大きい方の方は上手だわ。さあ、今度はひとりずつの列になって、遊戯室に行きましょう。四人並んでいるでしよう？ こつ

ち側のはじの方から順番に一列になって、前の列の四人の方がおわったら、今度は次の列の、またこっちのはじの方からでるのね。いい？だからみんなおとなりの方が動いてから今度は自分が動くのね。さあ、やってみましょう」

子どもたちは順々に一列になって、廊下に出ていく。

先生「そう、そう、上手ね。そうよ、こっち側から、あら、あら、あら、①ちゃんはまだよ。こっち側の人からね。だから①ちゃんはYちゃんが行ってから行くのよ。そう、そう、上手だわ。こういうふうにするのよ」

子どもたちは一列になつて遊戯室にいく。

遊戯室で九月生まれの人の誕生会がはじまる。

運動会の練習

十時十五分

誕生会がおわって、子どもたちが保育室にかえつてくる。つづいて運動会の練習がはじまる。

先生「おてあらいに行きたい方はいってきて、おてあらいにいった方から外に並んでちょうどいい」

K「せんせい、背の順？」

「そうね、背の順に並びましょうね」

子どもたちは庭にならぶ。

先生はタンバリンの入っている箱を庭に出して音楽行進の用意をする。

小学校の校庭を使える時間が変更になつたのでしばらく各クラスの先生方が集まつて協議する。それからリレーのときに並ぶ並び方を練習する。

十時四十五分

小学校の運動場に移動して、音楽行進、遊戯、リレーの練習をする。

十一時四十分

運動会の練習をおわって保育室にもどる。

子どもたちは手を洗つて、帰園の仕度をする。

先生「じゃ、今日はおみやげがあるから、お水をのむ方はのんでもから、いすにこしかけてね。さ、じゃこしかけて下さいな」といつて、先生は子どもたちに席につくようにいう。子どもたちはがやがやしている。

先生「ちょっと、お口をしめてちょうどいいな。ちょっと、お口をしめてね」

Kと⑤がすわるところをさがしている。

先生「Kちゃん、⑤ちゃん、こっちの机にいらっしゃい。あいているわ」

子どもたちはみんな席につく。

先生「あのね、はじめて小学校の運動場に行つたけれど、みんな上手だったわね。リレーで三列になつたけれど、三列になつたり、二列になつたり大変ね。あのリレーね、あんな大きな丸を走る

のだから大変だけれど、今日は反対に走る方はいなかつたけれど、今日みたいに走るのよ。それから、丸の外側を走るのよ。

今日は中側を走つちやつたかたがいたけれど、今度する時は上手にしましようね」といつて、黒板に図を書いて説明する。

先生「遊戯はとつても上手だつたわ。きゅうびいさんの時ははやく

相手をみつけて、ふたりになりましょうね。どうしてもみつからなかつたら三人でもいいわよ。三人のきゅうびいさんもかわいいでしょ？　まさか泣く方はいないけれども、いつまでも変な顔をして立つているとおかしいでしょ？」

先生は誕生会のおやつを持つてくる。

先生「さ、それじゃ、今日はお誕生会でしたけれど、おやつをいただく時間がありませんから、ハンカチを持つているかたはそれにつつんでおみやげにしましよう。ハンカチのないかたには袋をあげましょうね。あのね、かごはきのうはおやすみで、今日はつくる時間がなかつたかたもあるけれども、いいわね、がまんしてね。またつづきをつくればいいから。ほんとうはお当番さんに配つていただくのだけれど、今日はおそくなつて時間がないから、先生がくばるわね」といつて、先生はお菓子をくばる。

先生「あ、袋の方にはゴムをあげましょうね」といつて、ゴムをわたす。

先生「それから、今日は大事なお手紙があるのよ。運動会のブログラムなの。大事に持つて帰つてね。じゃ、先にきょうならをしまじょうね」

みんなで「さようなら」といつて、おじぎをする。

先生「それじゃね先生が名前をよびますから、よばれた方からこの手紙を持って、それからタオルを持って、あ、セーターや上着をぬいだ方はそれも忘れないように持ってね」

十一時五十分

帰園

九月二十八日 月曜日 雨

運動会の練習がはじまるまで（九時五十五分）に子どもたちがしていたことがら

○絵をかく

○保育ブロックでロボットや人工衛星をつくる。

○箱積木で格納庫をつくる。

ロボット軍隊、人工衛星部隊といつてはいるが、おいかけたり打ち合つたりしているだけで組織らしいものはみうけられない。

○誕生会のかごのつづきをつくる。

○本を読む。

○聖火リレーをする。

○竹の輪を床の上になげて、輪の中をとぶ。

（あそびが十分発展しないうちに運動会の練習の時間になる）

九時五十五分
お片づけをする。

一列→二列→四列→一列になる練習をする。

幼稚園全体で遊戯をする。

つなひきをする。

九時二十五分

Yはロボットをつくりあげる。

Y「こっちは、ロボット軍隊です。ロボット軍隊です。発射、用意、人工衛星部隊をやつつけろ」といつて、ロボットを持って、Rに向かう。

Y「バ、バーン」といつてYとRは打ち合う。

Yはロボット軍隊になって、他の子どもに働きかける。他の子どもたちはYに働きかけられて、「ピューン」といつて、Yに応じて打ち合っている。
(組織らしいものは、みうけられない)

九時十五分

男児、T・I・Hの三名が運動帽をかぶってはしゃいでいる。

三人は帽子をかぶったままで、机に向かって、話しながら、絵を描きはじめる。

女児八名が誕生会のかごをつくりっている。

土曜日にかごをつくりあげた(R)は本を読んでいる。

先生は⑤に当番のリボンをわたして、

「お当番さんに、わたしてちょうだい」といつて頼む。

保育ブロックで男児、E、M、U、R、Y、Aの六名が遊んでいる。

各自、ロボットをつくっていて、できあがると、「ピューン」といつて、おいかける。そしてもどってきて、またつくる。

Yは箱積木で格納庫をつくっている。

Y「ここにひみつがたくさんあるよ」という。

Uが格納庫の積木を少し動かして、すきまをつくる。

U「Mちゃんのは長いから、ここに入れるの」という。

他の子どもたちは、YやUがいつていることに対して、だれも何

もいわないで、せつせとめいめいのロボットをつくっている。

遊戯室では四歳児が運動会の練習をしている。

九時三十分

Hは絵をかくのをやめて、保育ブロックのところにきて、何かくりはじめる。

Y「Eちゃんのロボットはずいぶんつよいね」とHに話す。
Hはだまつてつくっている。

九時四十分

Hは保育ブロックで遊ぶのをやめて、Aをさそい、廊下に出る。

HとAは保育室にもどつてくる。

H「やりましょう。聖火リレー」と大きい声でいう。

N、T、OがHのところに行く。

五人で遊戯室に走っていく。

「もうかでしよう」といながら、みんな遊戯室から出てくる。

H 「ほら、ここで、ようい、どん、てやって、こっちにかえってくるのにしよう」といつて、Hは出発点と、折り返して出発点

にかえってくるリレーをしようと提案する。
O 「あそこの赤いところにしようよ」といつて、Oは折り返し点を提案する。

O が提案した折り返し点は廊下の全距離のほぼ中ほどである。赤いところ（消火栓）はHにとっては走り足りない。H はもっと遠くまで走るつもりであった。

H 「ねえ、聖火リレーはとおくまでいくんですよ。玄関の外までね。Oちゃんたちは、じゃ赤いところでいいよ」といつて、H はひとりで走り出す。

N はHが走っていくのをみている。

N 「あ、向うで、とまっちゃった」

「だれか、入ったんだよ」とみんなは遠くのHをみている。H がもどってこないので、他の子どもたちは遊戯室をのぞいて、

四歳児の遊戯を見はじめる。

しばらくして玄関の方をふりかえって見て、

「あつ、こないよ」

「いこうよ」

N 「ぼく、ここでみている」

N はひとりだけ遊戯室の戸口のところに残って、四歳児が遊戯を

しているのをみている。

他の子どもたちはHのところに行く。

九時四十五分

Hたちが聖火を一本持つて、保育室から出てくる。遠くからNを呼ぶ。

H 「Nくん、聖火、ひとつしかないよー」

H はひとりで玄関まで走つていって聖火を持っていないのに気がついて、保育室にとりに行く。

N 「あつ、わすれちゃった。せんせいのところだ」

N は保育室の方へ走つていく。

聖火を一本だけ持つて、五人が一団になって保育室から出てくる。

H 「ぼくと、Nくんのときと、Aくんのときはとおくまでいくの」

といつてHはひとりで走り出す。

T 「Hくん、がんばれ、がんばれ」といつて、ポンポンとび上がりながら応援している。だんだん前の方にとび出して行く。

H が走つて帰つてくる。

T 「二回ずつ走つて、休み時間」という。

H 「きめるのは、ぼくだぞ。休み時間じゃないよ」

T 「休み時間だよ」といつて、ふたりとも、真剣になつて、いい

あ。

H 「そんなら、ぼく、やめる」という。

みんなで、いっしょに保育室に走つていく。

◎、○、①が廊下で竹の輪をなげている。

めいめい、いくつかの竹の輪を持つていてる。

竹の輪をなげて、そのあと竹の輪の中をポンポンとどんごいく。

四つ、二つ、一つ、三つといろいろな数に輪をおく。

輪と輪の間隔もいろいろである。

◎がまずとんでみせる。

◎、「こういうふうにするの」といつて○、①に指図する。

○、①は◎にいわれたようにとんでいく。

お片づけの時間になって、保育室にかかる。

九時五十五分

先生は箱積木をきちんと片づけている。

聖火リレーをしていた子どもたちは、一団になつて保育ブロック

を片づけている。

先生「おてあらいにいつていらっしゃいね」

「背の順にならぶの？」

「そう、背の順に並びましょうね」

「はちまきいる？」

「ええと、おゆうぎだから、いらないわ」といつて、先生はま

わりを片づけながら、子どもたちに応じる。

○と①が使つていた机の下が紙くずで散らかっている。

先生「②ちゃん、③ちゃん、ほら、あの机の下をきれいにしなくち

ゃ」という。しばらくして、○と①が紙くずを片づけないで並

んでいるのをみて、

先生「④ちゃんたち、机の下に、ほら、紙がありますよ」という。

④は小さいほうを持ってきてはきはじめる。

女児六名が、ぼうきやちりとりを持ってきていつしょにそうじをする。

机のまわりが大体きれいになる。

先生「はい、ごくろうさま。あとは先生がするわ。並んでいてね」

先生はそうじをしながら

「前から順番に二列になつて、四列になるの、できる？」といふ。

先生はそうじをおわって子どもたちのところにくる。

先生「一列になるの、上手になつたかしら？」といふ。

先生は子どもたちに、一列になつて保育室の前の戸口から廊下に出で、保育室のうしろの戸口から入つて、タンパリンをとつて二列

になるよう。次に二列から四列になる説明をする。

子どもたちがやってみるとスムーズにできる。次に一列になつて

保育室の前の戸口から出て、後の戸口から入つてきてタンパリンをおくよう。いう。

子どもたちはそのようにする。

幼稚園全体で遊戯をして、そのあと、つなひきをする。

九月二十九日 火曜日 晴

小学校の運動場で小学生といつしょに予行練習をする。

運動会の練習をおわって、保育室にかえってくる。

C 「ほりあいせんせい、聖火リレーにはいって」

先生「どこで、するの？」

C 「お外」

先生「ふたりじや、できないわね」

C 「聖火リレーするもの、この指とまれ」

先生「人があつまつたら、教えてちょうどい」

明らかに、もうすぐ昼食になるが、先生は、子どものさそ
いかけに応じている。

結局、リレーははじまらないで昼食になってしまふ。

庭

①、②、③、④、⑤が砂場で遊んでいる。

A、I、N、U、H、Tが野球をしている。

C、B、他の組の子どもふたりがボールを持っています。

Cがさそいかけて、他の子どもといっしょに遊ぶ。

庭で、C、B、他の組の子ども二人が、ボールを持って走っている。
Cが庭から走って、保育室に入ってくる。

「せんせい、四人入ってくれたよ」といおわるや、走って庭
に出ていく。
家のセットをつくる。

九月三十日 水曜日 晴

Cが友だちと遊ぶ。

家のセットをつくる。

運動会の練習。

九時五十分

保育室

あき箱を入れた大きなダンボールがおいてある。

女兒が共同であき箱で家のセットをつくっている。

先生は子どもの机に向かって、運動会のときにつかうトーチをつ

くりながら、家のセットをつくっている子どもたちと話している。

⑥、⑦、⑧、⑨、⑩が家のセットをつくっている。
少しはなれたところで、⑪が⑫たちのようすをみたりしながら、
家のセットをつくっている。
⑬が立ったまま、みんなが家のセットをつくっているようすを興

味をもつて、じっと見ている。

先生はトーチをつくりながら、子どもたちのようすを見ている。

「みんなで、おてつだいしていいわね」という。

⑩は小さな箱でつくりた家具を大きい箱の中におく。

⑩「せんせい、セロテープでつけなくても、たつているわ」とおどろいていう。

先生「白じゃなくて、色をおつけなさいね」という。

先生は⑩がみんなのつくりてているのを見ているのを見て、

先生「⑩ちゃんも、あとでお手伝いしてね。⑪ちゃんと相談してでもいいし、大きい家があるから、みんなでつくってね」

⑫は相変わらず、じつと、みんながつくりてているのを見つづけている。

⑭と⑯がダンボールの箱のところで、自分のほしい箱をさがしている。

⑯「これで、いいじゃない?」

⑮「これ、ポスト」といつて、お互にダンボールの箱の中から小さい箱をとり出す。

⑯は透明な箱をみつける。

⑯「あつ、そうだ、ガラス、つくろうかしら」

⑯「これ、だめ、べたべたするわ」

(セロテープのしんでまわりに接着剤がついている)

先生は⑯が持っているセロテープのしんをみて、

「また、何かにつかえればいいわね」という。
⑩と⑯はさがし出した箱を持って机のところに行く。

Iが庭から入ってくる。

I「せんせい、ぼくもつくる」といつて、Iは材料をさがしに行く。

⑪はひとりでみんなのようすを見ては、つくっている。

先生は⑪が他の子どもたちがつくりているのに興味をもっているのを見て、

先生「⑪ちゃんも、相談してつくるといいわ。これ、どうしましょうって、⑫さんと相談して」という。

先生は子どもたちがクレヨンだけをつかっているのを見て、「マジックでかいてもいいわよ」という。

⑫がつくりたものを先生に見せる。

「あら⑫ちゃんの、いいわね」

⑬「きりすぎたかしら」

先生は⑫から箱をうけとつて、よく見ながら、「大丈夫よ」という。

⑭は机のところにもどつて、つくりつづける。

十時十分

先生はトーチをつくりている。

Hが野球をやめて、保育室に入つてくる。

H 「せんせい、ぼくもつくりたい」といつて、みんながつくって見るものを見る。

子どもたちがあき箱をつかって家のセットをつくっているのを見

て、H 「箱ね」といつてあき箱をとりに行く。

⑩ 「ずいぶん、はやりだしてきたわね」という。

H 「それでつくろうかな」といいながらHは箱をあれこれとさがす。先生は紙くずがちらかっているのを見て、

「紙くずは入れて下さい」という。

Kが庭から入ってくる。

K 「みんな、何つくっているの」

先生 「みんなすきなものをつくっているのよ」

Kはあき箱をさがしに行く。

⑩ 「わたし、おもちゃ係り」

先生 「あら、いいわね。⑩ちゃんは何の係り？」

⑩はだまつて笑っている。

十時二十五分

先生 「いま、はじめる方、またあと、つづきをすればいいわね。もう、お片づけだわ。せつかこれからやろうと思ったのに。残

念だけど、おぼえておいてつづきをしまじょうね」という。

先生はまわりを片づけはじめる。

⑩は⑩たちがつくるのをじっと見ていたが、⑩たちが片づけはじめると、

⑩ 「それ、なに？」とたずねる。

先生はDに、

「Dさん、すみませんけれど、遊戯室に⑩ちゃんがいるから、

呼んできて下さい」とたのむ。

Dは⑩を遊びに行く。

⑩はつくりかけのセットを大事にピアノのところに運ぶ。いつたんピアノの横の机の上に製作品をおいて、いすを運んでくる。それからいすを踏み台にして、製作品をスタンドピアノの上におく。

⑩ 「⑩ちゃん、これもおいて」と家のセットを運んでくる。

「これも」「これも」と子どもたちが次々につくりかけの作品を運んでくる。

⑩はひとつずつうけとりながら、

⑩ 「ポスト」「おふろ」といつてピアノの上においていく。

⑩ 「もう、ない？」と、みんなにたずねる。

⑩が箱と箱をわたり廊下でつないであるつくりかけのセットを持

つてくる。わたり廊下のところだけ、色がぬつてある。

⑩ 「そーっと、おいておいてね」という。

女児はほうきを持ってきて、まわりをはぐ。

男児は保育ブロックを片づけている。

保育ブロックは片づける時も人気がある。

先生はトーチの仕上げをしている。